

## 市指定史跡

きぬがさやま

織山の古墳群

さん めん こ ぶん ぐん

# 山面古墳群

所在地：東近江市猪子町・佐野町

東近江市の北東に位置する、湖東平野に特徴的な独立山塊のひとつである「織山（きぬがさやま）」には、6世紀後半に造られたと考えられる古墳が180基以上確認されています。分布状況から複数のグループに分けられ、現在の猪子山公園から北向岩屋十一面観音周辺の33基からなる古墳群を、山面（さんめん）古墳群とよんでいます。

それぞれの古墳は直径約10mの円墳で、内部に亡くなった人を納める横穴式石室が造られています。織山は湖東流紋岩（ことりゅうもんがん）という岩石でできた山で、この湖東流紋岩が、石室の石材として使われています。山面古墳群のような、小規模な古墳が数多く集まった群集墳（ぐんしゅうぶん）が築造されるようになった背景には、古墳を造ることができる階層が広がったためと考えられています。

山面古墳群の周辺には岩舟神社や磐座、山頂には北向岩屋十一面観音などがあり、古くから信仰の対象としても大切にされてきた場所でもあります。人びとのくらしと祈りが身近に感じられる遺跡です。



織山遠景



30号墳の開口部の様子



14号墳石室内の様子

## 横穴式石室の発掘調査

横穴式石室は、出入口と羨道（せんどう）とよばれる通路、そしてお棺を納める部屋である玄室（げんしつ）があります。出入口をつくることで、追葬が可能な石室の形です。

棺は残っていませんでしたが、14号墳や30号墳では鉄釘が出土したことから、木棺であったと考えられます。また、お供え用の土器や、亡くなった人が身に着けていた装身具が出土しています。

52号墳では、石室床面の石の隙間から、金環（きんかん：みみかざり）、メノウ製勾玉、碧玉製管玉、ガラス製管玉、ガラス製小玉、メノウ製丸玉が出土しました。ガラス玉は中国大陸、朝鮮半島を経由して輸入された当時大変貴重なもので、古墳群の中でも有力者のお墓であったことをもの語ります。



52号墳発掘調査前



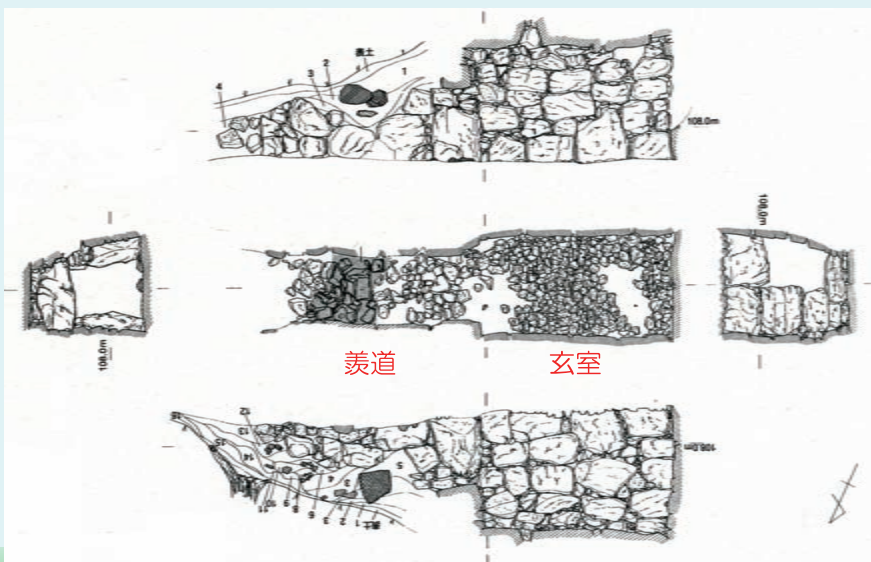
52号墳石室内部



52号墳石室床面の状況



出土した装身具



52号墳石室実測図

石室の全長は約 7.5m

玄室：長さ約 3.5m、幅約 1.8m、高さ約 2.2m

羨道：長さ約 4m、幅約 1.2～1.3m、高さ約 1.2m

## 古墳の分布

山面古墳群の中でもいくつかのグループに分かれているようです。調査はされていませんが、古墳をつなぐ参道となる道がめぐっていると考えられます。



## 古墳の保存と活用

山面古墳群は、古くから古墳が開口し、地元では明治時代に出土した土器類が伝わっています。また、古墳が見学できるよう里山整備がおこなわれるなど、身近に親しめる歴史遺産となっています。



竹などが伐採された 23 号墳



明治 40 年の古墳発見の届書



猪子町自治会所蔵土器の一部

## 遺跡位置図

古墳に葬られた人々は、隣接する古墳時代集落遺跡である中沢遺跡・斗西（とのにし）遺跡に住んでいたと考えられています。これらの遺跡は、愛知川左岸の微高地上に立地しています。この一帯は古くから開発が行われ、大変住みやすい場所であったのでしょう。



- 1 山面古墳群 2 西山古墳群 3 能登川北山古墳群 4 望湖古墳群 5 安楽寺古墳群  
6 須田山古墳群 7 五個荘内田古墳 8 小谷古墳群 9 正瑞寺古墳群 10 五個荘北山古墳群  
11 山ノ下古墳群 12 佐野山古墳群

## 発掘調査報告書

発掘調査成果は、下記の報告書にまとめられています。埋蔵文化財センター、図書館などで閲覧できます。また、出土品の中でも装身具は市指定文化財となっており、埋蔵文化財センターで展示しています。

発行：能登川町教育委員会

- ・『能登川町埋蔵文化財調査報告書第57集 猪子山（山面）古墳群 小川遺跡 高木遺跡』  
平成16年3月



東近江市の遺跡シリーズ16 「織山の古墳群 山面古墳群」

編集・発行 東近江市教育委員会 埋蔵文化財センター

〒521-1225 滋賀県東近江市山路町 2225

TEL 0748-42-5011 IP 050-5801-5011

FAX 0748-42-5816

[平成28年3月発行]